

14. グローバリゼーションと NGO に関する調査研究

NGO（非政府組織）の興隆と、NGOとの協働の動きが広がっている。国際機関はすでにNGOとの協働の姿勢を確認し、自らの機構改革を含めNGOとの関係強化に努めている。世界の多国籍企業も、NGOの主張や活動に対する認識を深め、これも社内的な機構改革を含め、NGOとの新しい関係の構築に努めている。

本報告書は、グローバリゼーションの進展に対し、グローバリゼーションに係わりが深いNGOと政府・企業との関係などを中心にまとめている。

第1章は、NGOと政府・企業との関係について本件の研究会での講演内容および研究会委員等との意見交換内容で構成している。

国益にとらわれ地球的課題に効果的に対応できない国家政府、利潤の極大化を図る多国籍企業の過激な競争がもたらす環境破壊などの陰の部分に対し、国境を超える「北」の市民運動（NGO）が台頭してきたこと、「地球住民益」に根ざし世界にアピールする「南」のNGOの活動や国連などの国際機関の動きをとりあげている。

そして、NGOの基本的性格が、市民社会に根ざし、市民の自発的な参加によって支えられていること、政府や企業から独立し、自律した運営を行っていること、利潤の追求や配分が目的でないこと、人道的動機、または社会的公正や社会正義の実現を活動の動機としていることにあること。その活動の特徴が、緊急の場合など、すぐに現場にかけつけることができるなど機動性に富むこと、現地のニーズの変化に合わせ、柔軟に対応できることを指摘し、そのうえでNGOと政府や企業との関係について論じている。

第2章は、NGOと企業との関係の事例として、オリンピックにおけるグリーンゲーム（環境問題）をとりあげている。前回のシドニー・オリンピックにおけるグリーン・ゲームの成果を総括するとともに、北京で開催予定のオリンピックにむけての取組み状況と対比している。北京でのオリンピック開催にあたりNGOが積極的に環境問題に関わっていることの紹介と中国のNGO活動の状況をとりまとめている。

最後に、アジアのNGOなどに関連した参考資料を収録している。